

29歳 W杯初表彰台

湯浅 銅

83度目の正直



トリノ7位
 ◆湯浅直樹(ゆあさ・なおき)1983年(昭58)4月24日、札幌生まれ。北海道東海大を卒業。アルペン男子回転で06年トリノ五輪7位、10年バンクーバー五輪は出場を逃した。11年世界選手権は6位。W杯では昨季2戦連続で記録した5位が最高だった。177㌢、72㌔。
 ◆片桐幹雄・全日本スキー連盟アルペン部長 可能性が大きいとは思っていたが、やっと来た。これでコンスタントに上位に来れば、五輪もメダルが射程圏内に入る。
 ◆古川年正・全日本スキー連盟競技本部長 最高のクリスマスプレゼント。アルペンはなかなか表彰台がなかったが、光が見えてきた。日本スキー全体が上昇機運だ。
 ◆クリスチャン・ライトナー・チーフコーチ 湯浅はとでも速いし、素晴らしいスキーヤーだ。でも腰に大きな問題がある。自分で歩けないほど。だから驚くべき結果だ。

3位に入った湯浅の1回目目録
 P トーナメントカンピリオ(A) 自身初の表彰台となる3位に入った湯浅共同

●マルセル・ヒルシャー(オーストリア) 1分42秒50(52秒07、50秒43) ●ノイロイター(ドイツ) 1分44秒17 ●湯浅直樹(スポーツアルペン) 1分44秒78(54秒13、50秒65)
 ※ヒルシャーは今季2勝目、通算14勝目、佐々木明(ICI石井スポーツ)は1回目に途中棄権

スキーW杯 男子回転

◆18日◇第3戦◇イタリア・マドンナディカンピリオ
 29歳の湯浅直樹(スポーツアルペン)が自身初の表彰台となる3位に入った。これまでの最高位は昨季2度あった5位だった。欧米の強豪が集うアルペンW杯で日本勢の3位以内は2006年3月の回転2位の佐々木明(ICI石井スポーツ)以来、男女を通じて5人。14年2月のソチ冬季五輪へ弾みをつけた。

1回目26位

旗門ぎのぎの攻め、湯浅が硬くしまった急斜面を一気に滑り降りてきた。「ラストの6旗門から何も覚えていない」。コースアウトしてそのスピードで前のめりにゴールすると、そのまま転倒し、動けなくなった。研ぎ澄ました集中力で腰痛を抑え込み、快挙を成し遂げた。
 2011年の世界選手権は6位で、昨季はW杯で5位が2度、こつこつと着実に力を蓄えてきた29歳のレーサーは通算83度目のW杯で初の表彰台を「奇跡で

日本男女5人目快挙も「奇跡ではなく積み重ねの1つ」

は「奇跡ではなく積み重ねの1つ」と言った。
 1回目26位で、5番目にスタートした2回目は「練習の滑りがうまく出た」という。結果的に2回目は2位のタイムで残りの2人まで電光石火の一番上に名前が残った。

タフマン!!

今季開幕直前に出た腰痛が何度も再発し、この大会の前日も自力で歩くことがままならなかった。それでも滑っている間は痛くない。集中力が極限の状態なので」という。1回目の後はスタッフ2人に抱えられないと動けない状態だったが、約2時間半後の2回目に驚異的な滑りを披露した。スキー板をつえにして表彰台に上った湯浅を、日本のライトナー・チーフコーチは「こんなタフな選手は世界中にいない」と称賛した。

ソチへ弾み

「好成績が出るほど、自分の滑りに自信が湧くし、動きも良くなる。この勢いで上がってきたい」と湯浅。来年2月の世界選手権、来季のソチ五輪に大きな弾みとなった。

佐々木途中棄権 ○…佐々木の今季2度目のW杯は、1回目途中棄権で終わった。今大会は得意な急斜面が続くコースだっただけに、悔しそうに天を仰いだ。攻める気持ちが前に出すぎたのか、序盤から何度もバランスを崩した。その度に粘って持ち直していたが、終盤の旗門に当たって前に吹っ飛び、レースを終えた。

ゴール後に腰痛

湯浅2回目で

— ようやく表彰台
 世界選手権の6位、W杯の5位が2度あっての3位だから、誰も僕を疑わないと思う。
 — 2回目の快走
 もともと調子は悪くなかった。いかに練習の時のパフォーマンスをレースで出すかが課題だったが、2回目はいつもの僕らしい滑りができた。
 — 予感
 いける予感はいつもしている。だいたい裏切られるけど、違った。

2回とも滑った後は腰痛で動けなかった
 滑っている間は痛くない。かなり高い集中力がなくてできないことだと思う。でもゴールして1度止まったら動きたそうすると信じられないぐらいの激痛が走る。
 — 暫定1位の間はどきどきしたか
 それよりも痛みで震えが止まらなかった。自分の初めての表彰台って、こんな形でできてしまうのかと思った。

アルペンでW杯を転戦する選手が使用するスキーはほとんどが欧米製だが、湯浅は日本製にこだわりの続けた。製造元は、湯浅が支援を受けるスポーツ用品大手企業が展開するジャパーナ社だ。
 北海道・琴似中時代から湯浅を知る同社の大高弘昭営業部長が陣頭指揮を執り、軽量化や操作性を重視した湯浅モデルの板を開発。3位の快挙に「うちのスキーの速く裏面を切れる性能を十分に発揮してくれた」と留飲を下した。
 シャンプ女子など新興種目が注目される中、ソチ五輪のメダル有力種

こだわりの日本製板特注モデル

目に指定されていないアルペンは、日本オリンピック委員会の強化補助金を十分に確保できなかった。そこで全日本スキー連盟は、協賛社に入会金などを積み立てた虎の子の資金を一部取り崩す異例の措置で、約1000万円をアルペンの今季強化費に追加した。同連盟の古川年正競技本部長は「厳しいスキー産業の復興にはアルペンの活躍が必須というスポーツ界の方々の要望にも応えたい」と説明した。待望の好成績を挙げ、片桐幹雄アルペン部長は「歴史ある種目をやっているプライドを示せた」と喜んだ。